

午後Ⅰ試験

問1

問1では、化学品メーカーにおけるデジタルトランスフォーメーションの推進について出題した。題意や状況設定はおおむね理解されているようであった。

設問1(2)は、正答率が高かった。一方で、引渡条件や保険に関する情報を貿易システムに手入力する作業が最も負荷が大きいことを理解していない解答が散見された。

設問4(1)では、“ソフトウェアロボットの把握が難しい”という事実だけを述べた解答が多かった。ソフトウェアロボットの稼働状況を正確に把握することで、作業が的確に自動化されていることの十分な管理につながることを理解してほしかった。

設問4(2)は、正答率は高かったが、業務の継続性が脅かされるリスクだけを述べた解答が散見された。レビューを受けずにリリースしたソフトウェアロボットが不具合を含んでいた場合、それが他のソフトウェアロボットの誤動作の連鎖につながる場合があることを理解してほしかった。

ITストラテジストは、課題やリスクを評価した上で業務改革を実行し、デジタル技術の的確な活用を判断する能力を高めてほしい。

問2

問2では、保険会社の新事業の企画について出題した。題意や状況設定はおおむね理解されているようであった。

設問2(3)では、“保険給付金の把握のため”という解答が見られた。健康保険組合への協力の見返りを示す解答だが、B社が割引率体系確定のためにデータ入手を期待していることを理解してほしかった。

設問3(1)では、“健康改善した被保険者に特典を提供するため”という解答が散見された。健康保険組合で予定しているデータを利用した業務ではあるが、健康保険組合主導ではなく、被保険者に自発的に健康増進に取り組んでもらいたい点があることに気付いてほしかった。

設問3(2)C社は、正答率が低かった。“リストデバイスの拡販”という解答が散見された。健康保険組合の要望が直接リストデバイスの数量には関連しないことを理解してほしかった。

ITストラテジストは、情報技術の動向と自社の事業モデルを理解し、事業戦略を立て推進する能力を高めてほしい。

問3

問3では、大学受験向け予備校の合併に伴うITを活用したビジネスモデルの見直しについて出題した。題意や状況設定はおおむね理解されているようであった。

設問1(3)では、“G社に通う学生のニーズ”に応える情報を解答として期待したが、“ALSが保持する情報”という解答も一部に見られた。特定の大学向け講座の開講がG社に通う学生のニーズであることを理解してほしかった。

設問2(1)は、正答率が低かった。“Web会議形式の講座が利用されていない状況”という解答が散見された。ALSに蓄積されたデータは、多くの学生が苦手とする分野の傾向が分析できることから、改善できる状況が何かを判断してほしかった。

ITストラテジストは、事業環境や顧客ニーズの変化を的確に捉え、効果の高い解決策を策定する能力を高めてほしい。

問4

問4では、自動運転技術を用いた海底探査システムの事業計画の立案について出題した。題意や状況設定はおおむね理解されているようであった。

設問1(3)では、海底探査をする市場は収益面でリスクがあると判断した理由について解答を求めたが、収益面でのリスクではない理由を述べた解答が散見された。無人で海底探査をする方法が主流になることに着目して解答してほしかった。

設問2(2)では、無人海底探査機を複数同時に運航して探査することによって解決しようとした、現在の海底探査の問題について解答を求めた。正答率は高かったが、題意から外れ、今後の海底探査の課題を述べた解答も一部に見られた。

設問3(3)では、海底探査システムで開発した技術を基に、Y社に提供する新たな技術について解答を求めたが、正答率は低かった。海底探査システムで開発した技術そのものを述べた解答が散見された。Y社が自動車メーカーであることを踏まえた上で解答してほしかった。

ITストラテジストは、社会の要求と市場の動向を把握し、企業の経営状況と手掛けようとする事業の将来性を踏まえた上で、戦略的な事業計画を立案し推進する能力を高めてほしい。